

## キッズ・バスケットボールの特別ルールのお考え

キッズの特別ルールは、ミニバスケットボールのルールを基本とするが、キッズがゲームを楽しめることを優先し、バスケットボール本来のゲームのスピード感を損なうようなルールやキッズプレイヤーが理解の困難と思われるルールは、なるべく寛大なルールの適用が望ましいと考えます。

事細かなルールを理解させ、厳しく適用することは望ましくないと思われるルールにおいて、次のキッズ特別ルールを適用します。

### (1) 競技時間

ゲームはハーフ・タイム3分をはさんだ前半・後半各8分とする。各ハーフはクォーター・タイム1分をはさんだ4分ずつとする。各4分を第1、第2、第3、第4クォーターと呼ぶ。

大会によっては、試合回数などの都合でクォーター・タイムの短縮などを行うことができる。

#### \*延長について

4クォーターが終了して同点の場合には、2分後に、オルタネイトポジションルールで2分の延長戦が始まる。

個人ファール、チームファールなどは、4クォーターの続きとなる。

チャージド・タイム・アウトは1回請求できる。

延長戦の結果、同点ならば、1分後、オルタネイトポジションルールで再延長戦となる。

再延長戦は、2分を計るが、得点を2点先取したチームが勝ちとなる。(フリースローなどで1点では、まだ勝ちとならない。)

再延長戦でも決着がつかない場合は、選抜5名によるフリースロー対決となる。

キャプテン同士がジャンケンで勝ったほうが、先攻後攻かリングの方向を選択できる。

負けた方は、勝った方が選択しなかった条件を選べる。

5名によるフリースロー対決でも決着がつかなかったら、最初の順番に戻りサドンデスとなる。

\*選抜5名の中には、退場者も参加してもよい。

(2) フリースローラインは、正規より 1 m 短くする。

(3) 30 秒ルール、3 秒ルールは、適用しない。

(4) チャージド・タイム・アウトについて

前半、後半、延長時に、1 回ずつ請求できる。再延長戦のときは、請求できない。

(5) 選手の交代について

各クォーター及び各チャージド・タイム・アウト時に交代できる。

(6) ファールについて

ミニのルールを適用する。

(7) キッズ特有の寛大処置について

次のルールは、ゲームやチーム、プレーヤーのレベルに合わせ、寛大にルールを適用する。

\*寛大とは、辞書で「度量が大きく、思いやりがあり、むやみに人を責めないこと。」とあります。キッズは、子供同士の力の差が大きい場合があるので、個人の能力、チーム力を考え、特に「思いやり」のあるジャッジが望ましい。

(A) ラインの踏み越しによるバイオレーションを寛大に適用する

- a. フリースローを打った後の踏み越しを寛大に適用する
- b. サイドライン、エンドラインの踏み越しを寛大に適用する

(B) 5 秒ルールによるバイオレーションを寛大に適用する

- a. すべての 5 秒ルールバイオレーションを寛大に適用する

(C) トラベリングを寛大に適用する

- a. ピポットフットが定まらず、両足とも、ばたばたしている状態を寛大に適用する。(シュートがブロックされたあと、そのまま着地した場合も、ばたばたしている状態とみなす場合もある)
- b. ボールのもらい足、パスを出すとき、ドリブルの突き出し、ドリブルの終わりによるトラベリングを寛大に適用する。  
\*ラグビーのように、あきらかにボールを持って走っている状態は、トラベリングとする。

#### (D) ダブル・ドリブルを寛大に適用する

ドリブルの継続中のダブル・ドリブルを寛大に適用する  
ただし、ドリブルが終わってボールを保持してからの再ドリブルは、ダブル・ドリブルのバイオレーションとする。

#### (E) 勝敗に関する寛大処置について

完全に力の差があり、大差の得点（20点差を目安とする）の開きが生じた場合には、審判、両コーチはゲームが楽しめるよう配慮する。

- \* 今回の特別ルールは、H18年5月14日、役員会にて今までの試合を参考に上げてみました。
- \* キッズは、バスケットボールに対する可能性が非常に高く、試合の都度見直しを必要とされると考えられます。よって、キッズ関係者全ての方の意見を参考にしたいと思っています。よろしくお願いします。

※ ミニバスケットボールは、「友情・ほほえみ・フェアプレイの精神」が根底にあります。指導にもジャッジにも教育的配慮を！